

# 能登半島地震被災地情報

2024年1月8日時点 情報提供: 北村繁(新潟大学)

新潟市は、能登半島のような激甚な災害状況ではありませんが、新潟市中央区・西区において液状化による被害が多発し、一部避難指示が出ているエリアもあります。

西区では、液状化が広範囲におよんでいて、海岸に沿った大きな砂丘の南縁に沿って液状化+斜面災害が発生しているほか、報道によると信濃川の旧河道の地域でも液状化による噴砂や地盤沈下などが発生している模様です(第1図)。

また、それ以外の地域でも、噴砂や継続的な地下水の流出が生じている地域もあります。中央区でも液状化の被害が生じている箇所があるかもしれません。

液状化+斜面災害が発生している「寺尾通」周辺では、液状化で同じ高さにあった地面に高低差が出来たり、斜面移動によって道路の左右から押し出されてきたようになっている場所が見受けられました(第2図)。

しかしながら、家屋や地盤の被害は見方によっては、広範囲ではなく、かなり局地的のようで、多くの市民は平常に戻っているようにみえます。東日本太平洋沖地震の際には、被災地とみなされなかった弘前でも、物資や燃料の不足が深刻で生活への不安がはなはだしかったですが、現在の新潟は物資不足等は全くなく、被災家屋や建造物・噴砂で破損した道路等の復旧が進められている模様です。



第 1 図 新潟市西区の被害状況



第 2 図 液状化被害の様子